

広報 やまこし

1981
12月
第162号

■発行/新潟県古志郡山古志村役場 電話 (025859) 2331 ■印刷/大川印刷株式会社 ■毎月1日発行



孫たちの成長を願って

—— 虫亀老人クラブ

さる十一月十七日、虫亀老人クラブで、保育所に「孫の木」が植えられました。「この孫の木といっしょに、かわいい孫たちもすくすく成長してもらいたいと思います。また、この木は孫たちが大きくなったら役立つように……」と、桐の木を五本贈ったものです。



▲種芋原保育所

保育所入所申込受付

来年4月から保育所の入所を希望される児童の申込の受付をしています。

- 該当者……両親や祖父母等が就労、病気その他により家庭で保育ができない場合で、保育を希望する人。
- 受付期間……12月1日～28日
- 申込場所……役場住民課、または下記により出張受付を行います。印鑑と健康保険証を持っておいでください。

期 日	会 場	時 間
12月14日(月)	種芋原保育所	9:00～16:00
15日(火)	虫 亀	
16日(水)	民俗資料館	13:30～16:00
17日(木)	東竹沢診療所	
18日(金)	竹沢保育所	9:00～16:00

○申込用紙は、役場、保育所にあります。また出張受付の際、会場でも用意します。

インフルエンザ予防接種(第2回)

期 日	会 場	時 間
12月4日(金)	虫亀小学校	14:00～15:00
9日(水)	竹沢小学校	11:00～12:00
	東竹沢小学校	14:00～14:30
10日(木)	池谷小学校	13:00～13:30
	山古志中学校	14:00～15:00
11日(金)	種芋原小学校	13:30～14:30

役場の年末年始休暇
 年末年始の休暇で、十二月二十九日から明年一月三日まで、役場診療所、保育所の平常勤務を休ませていただきます。
 戸籍の届出、急用の方は、当直の職員にお申し出ください。
 (総務課)

「十人十色」の言葉のように、人はそれぞれ考え方や価値観が違います。
 こうした違いの中で豊かな人間関係をつくるには、みんなが守らなければならない最低限のルールがあります。
 親子間の断絶から、婦人・障害者問題に至るまで、様々な人間関係

人間関係のトラブルは 人権擁護委員会 ご相談を

12月4日～10日 人権週間



お知らせ

をめぐるとトラブルが起きています。このようなトラブルも、もとはと言えば、この最低限のルールが守られていないことにあるのではないのでしょうか。
 さて、こうした人間関係のトラブルで悩んでいる方が気軽に相談できる窓口として、人権擁護委員制度があります。人権擁護委員とは、人権問題の相談に応じたり、人権が侵害されている事件を調べる人——いわば、豊かな人間関係を守り、築いてゆくための良きアドバイザーといえます。
 相談は、法務局で毎日行っているほか、人権擁護委員の自宅でも応じています。もちろん無料で秘密を

自衛官募集



密は固く守られます。
 「住みよい社会は、人の和から、気軽に人権擁護委員を訪ねてみたらいかでしょうか。」
 人権擁護委員は次の方々です。
 関 和男 金 25555
 風間伴治郎(種芋原) 3753

～ 10月12日より ～
新潟県最低賃金
 1日 - **2,896円**
 時間給は1時間362円

村政功労者

永年勤続など 十二名を表彰

十一月三日文化の日に、村政功労者の表彰が行われました。村の発展に尽くし、特に功績を残された一般功労者十二名の方に、記念品を添え表彰状が贈られました。

青木 ノブ氏(種芋原)



教職員として十七年間、へき地校に勤務し、村の発展に尽くされた。

長島 与作氏(虫亀)



農協職員として二十五年以上勤務し、村の発展に尽くされた。

青木 徳司氏(種芋原)



村議会議員として十二年勤務し、村の発展に尽くされた。

小川 信雄氏(小松倉)



村議会議員として十二年勤務し、村の発展に尽くされた。

高野 哲四氏(桂谷)



村議会議員として十二年以上勤務し、村の発展に尽くされた。

風間 友一氏(種芋原)



選挙管理委員として十六年以上勤務し、村の発展に尽くされた。

川上 孫一氏(大久保)



消防団員として二十年以上勤務し、消防や村の発展に尽くされた。

星野 松永氏(下村)



消防団員として二十年以上勤務し、消防や村の発展に尽くされた。

長谷川新松氏(種芋原)



消防団員として二十年以上勤務し、消防と村の発展に尽くされた。

権沢 峰男氏(種芋原)



消防団員として二十年以上勤務し、消防と村の発展に尽くされた。

権沢 六郎氏(種芋原)



消防団員として二十年以上勤務し、消防と村の発展に尽くされた。

権沢 昭司氏(種芋原)



村職員として二十五年以上勤務し、村の発展に尽くされた。

村の財政状況をお知らせします (九月末現在)

昭和五十六年度上半期(九月末まで)の財政状況をお知らせします。別表のとおり一般会計では、予算額に対し、収入済額四八・二%支出済額三三・八%となっています。この後、国庫支出金、村債などが入り、工事請負費などの支払いが行われ、健全財政が確保されることになっています。

一般会計			出		
歳入	歳出	(単位 千円)	科目	予算額	支出済額
村税	30,915	14,814	議会費	30,915	14,814
地方譲与税	256,435	148,733	総務費	256,435	148,733
自動車取得税	121,175	58,011	民生費	121,175	58,011
交付税	51,893	27,240	衛生費	51,893	27,240
地方交付金	427	17	労働費	427	17
分担金	183,547	31,843	農林水産業費	183,547	31,843
負担金	13,554	5,512	工業費	13,554	5,512
使用料	289,731	41,232	土木費	289,731	41,232
手数料	22,882	7,852	消防費	22,882	7,852
国庫支出金	201,260	75,521	教育費	201,260	75,521
県支産	119,020	7,537	災害復旧費	119,020	7,537
財産収入	171,185	78,133	公債費	171,185	78,133
繰入金	108	102	諸支出金	108	102
繰越収	6,157	—	予備費	6,157	—
繰上収	—	—			
債	—	—			
合計	1,468,289	496,547	合計	1,468,289	496,547

住民の負担状況

(村民税と固定資産税の合計)

調定額	47,626千円
一世帯当り負担額	52,164円
一人当り負担額	13,337円

特別会計	(単位 千円)				
	国民健康保険	竹沢診療所	虫亀診療所	種芋原診療所	農業共済
予算額	204,837	26,472	13,817	37,446	19,363
収入済額	76,876	10,002	6,075	18,956	10,106
支出済額	69,450	9,757	8,137	18,276	6,732

除雪にご協力ください



いよいよ雪のシーズンです。またこの「白魔」との闘いが始まりました。

この雪を克服する第一のキメ手が除雪です。冬の足の確保は、私たちの生活を左右する重要な「生命線」となっています。

村でも、十一月から除雪対策本部(本部長一助役を設け、除雪・圧雪に万全を期していますが、みなさんの協力があつてはじめて、体制をフルに発揮できます。

路上駐車はしないでください。除雪作業に支障を与えるだけでなく、交通がストップしたり、事故の原因になります。また、十二月より、除雪区間は駐車禁止です。

道路に雪を捨てないでください。ただでさえまい雪道です。玄関や車庫の雪はらひは、交通に

一人一人が積極的に協力くださるようお願いいたします。

除雪区間

雪道を安全に



支障のないように。道路沿いの屋根の雪おろしは、連絡をとりあって一斉作業をしてください。その際は、必要により交通規制することもあります。

▼なだれが発生して、通行できな

▼シートベルトを締めよう。

万一の「命綱」としてだけでなく、シートベルトは疲れを少なくする効果があります。さらに、正しい姿勢を保つことができ、車のスリップなどにも速く対応でき、事故の防止にも役立ちます。

▼チェーンは早めに着けよう。

「坂道だが何とか上がるだろう。対向車に会わないといんだが」と、雪の坂道をチェーンを着けずに登ったが、途中でスリップしたり、対向車に会って上がれなくなった——こんな経験をお持ちの方も多いと思います。

こうして車が動けなくなったりすると、交通までストップしてしまい多くの人が迷惑します。特に、毎年冬期間の交通量が増え、対向車に会わないだろう。止まった

▼チェーンを着ければいいはもう通用しません。

また、スリップ事故を防ぐため、積雪路では早めにチェーンを着ける習慣をつけてください。

▼シートベルトを締めよう。

万一の「命綱」としてだけでなく、シートベルトは疲れを少なくする効果があります。さらに、正しい姿勢を保つことができ、車のスリップなどにも速く対応でき、事故の防止にも役立ちます。

冬の交通事故防止運動
12月11日～1月10日



兄ちゃん奮闘記



統一劇場公演を主催した 若いしょみんな集まるう会

さる11月4日、統一劇場「兄ちゃん」の公演が行われた。この公演を主催したのは、村内の若者36人で作った「若いしょみんな集まるう会」。人口3,500人あまりの小さな村でこのような文化事業を催すことは大きな冒険ともいえるが、「若いしょ」の熱意で見事成功させた。その「若いしょ」の奮闘ぶりを紹介しよう。

▼前売券300枚達成の時 (10.19)



統一劇場公演は、二年前の「結婚」に続いて二回目である。「兄ちゃん」の話が来たのは六月下旬。「青年会でやってもうえないか」と。連合青年会で話を出したが、慎重意見が出て結局まとまらなかった。

そこで、前回の「結婚」公演を主催したふるさと会のメンバーに持ち込み、仲間を集めて有志でやろうと決まった。「しかし、前回是最初ということでも村の人も協力してくれただが、一回、二回と見に来てくれるかどうか、多少心配はあった」という。

仲間づくり

ふるさと会の会や青年会等の有志を募って、仲間づくりが始められた。公演の主権が直接の目的だが、同時に、山古志に住む若者のつな

看板づくり・券売り

下村に一軒屋を事務所借り、九月から公演の準備に入った。看板を作って立て、車からスピーカーでPRしたり、前売券を売



▲看板立て—1番大きいのは大人の身長2人以上。パイプを組んで……。

りに毎日回った。みんな勤めを持っていたり秋の忙しい時期だったが、いつも十五人以上は集まっていた。前売券の目標は七百枚。村民五人に一枚の割合である。一軒一軒売りに回ったが、押し売りみたいにならないよう、決してねばらないこと、と特に気をつけたという。「券売りに行く村の人に「がんばれ」と励まされたりしました。村の若いモンがやっているんだからとみんな関心を持っていてくれたんです。村を回ってみるとまだ行ったことのない所も多く、山古志は広いんだなあ。」って。公演の当日は朝から集まって、会場の山古志中体育館で舞台作りなどに大わらわだった。

歳時記

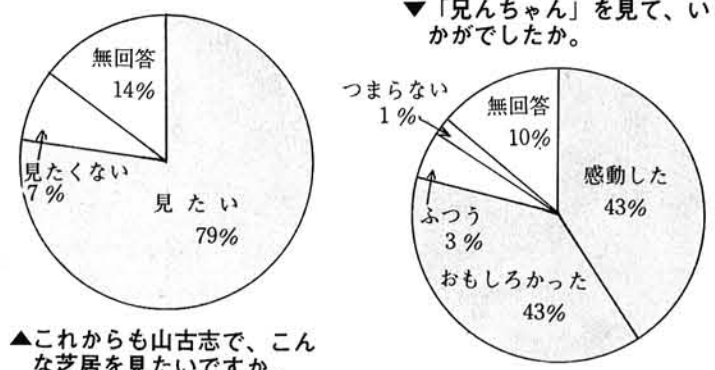
「冬將軍」 来たる



冬將軍がやってきました。11月8日の未明から降りだした初雪は、翌日に役場で積雪約40cmに。この早すぎる初雪に、ハザのイネが雪をかぶったり、野沢菜が折れたり……。道路では、除雪車まで出動し、通る車のチェーンやスノータイヤの音が響いていました。せめて、この冬が小雪であるようにと願うのですが……。



ところで、この「冬將軍」とはどんな將軍かご存知でしょうか。1812年ナポレオンがモスクワに遠征した時、寒さと雪にはばまれて敗退したという話からきたものです。連戦連勝のナポレオンをもってしても破れなかった冬將軍の正体は、シベリア寒気団と呼ばれる世界最大の高気圧だったのです。それにしても、今シーズンも「冬將軍」に負けないように体を鍛えようと、一方では省エネルギーにも心がけたいものですね。



▲これからも山古志で、こんな芝居を見たいですか。

「兄ちゃん」を見て……アンケート調査から
公演は午後六時半から始められた。農山村を舞台に後継者問題をテーマにしており、笑いの中にも考えさせられる内容だった。「兄ちゃん」を見てどうだったか、観客のアンケートから紹介しよう。(回答者二百四十四人)
「山古志の青年がこうした催しを企画することをどう思いますか。」の問いには、「良いことだ」とほとんどの人が答えている。「今回の公演の企画、内容とも大好評だった。(結果は上のグラフ)」
「身近な悩みや問題点がよく演出されていて感動した——〇〇」



二〇代男性
「舞台と観客との一体感があってすばらしい一夜でした。ありがとう——〇〇二〇代男性」

「私も跡取りです。土地がついて回って大変、でも親のめんどろもみたく——〇〇二〇代女性」
「農家の長男長女ってものすごく大変。若い人、これからはがんばって——三〇〜四〇代女性」
「劇の内容もさることながら、若いしょの会に敬意を表します。山古志の前途に明るいものを感じました——五〇代以上男性」
と、アンケート用紙に感想を書いている。

会員自身の入場料で、何とか黒字に

売れた入場券は、前売券と当日券を合わせて六百八十枚。ちょっとであるが黒字になった。しかし、これは会員三十六人の入場券も入っている。裏方をして、ほとんど劇を見なかった会員もいる。いっぽう当日の入場者は五百四十人。つまり、百四十人が前売券を買って見に来なかった。雨だったこともあるが、この百四十人のことを口にする、表情を暗くするのである。見に来てくれれば、劇の良さをわかってもらえるのに……と。

公演を終えて

会長の五十嵐良一さん(23歳、虫亀)は、「オレたちだけでこの公演がで

きたものではありません。村の人がオレたちのやっていることを、理解して協力してくれたからこそできたんです。たいへんありがとうございました。
仲間づくりができたのが一番の成果です。山古志だけでなく、他地区の青年とも知り合えたり、遠く柿崎から見に来てくれました。この仲間の会は長く続けたいです。何をやるかまだ決まっていますが、何をやるかまだ決まっています。せんが、旅行やキャンプなんかもいいと思います。また、他の若い人も入ってほしいです。ただ、大勢で自由に集まれる場所がほしいと思いますね」
公演を終えてひっそりとした事務所に、会のスローガンが貼ってあった。
やさしさ思いやりある山古志を
再び熱い血を
「兄ちゃん」とともに
活気ある村づくりは
若いしょ、おれたちの手で
羽ばたこう
ともに泣き、ともに笑える
明日のために
新しい時が、今はじまる——

おどろきます (7)

長男和哉は四か月、体重八キロ

「主人が、私はどうでもいって」

二丁野の星野せつ子さん



星野せつ子さん(25歳)は、昨年秋に結婚、今年七月二十九日に長男を出産して現在育児に専念しています。ご主人は松雄さん。

「生まれる前から、みんなは男の子がいいって。私は五体満足で生まれてきてくれたのが一番です。和哉という名前は、呼びやすい名前ということ、主人と二人でつけました。悪い子にならないで、元気に育ってくれればと思っています」

「一番かわいいのは、」
「家中みんなです。主人なんか、もうちょっとしたら和哉を一人です」

車に乗って行くんだあって、私はどうでもいって言ってます」
隣では、お姑さんのマチさんが「この子は、ばあちゃんのか・ら」と言っていました。

「生まれた時は主人にそっくりだったんですけど、太ってきたら私に似てるって言うんです。アッブプーと言ったり、キヤッキヤ声を出して笑います。母乳とミルクで育てていますが、病氣もしないで大きくなって、今は体重八キロくらいかな」

「こちらに嫁いできたのは、」
「ずっと東京の方へ行ってたんですが、正月泊まりの時主人と会ったんです。嫁いできたばかりであの雪でしょ。でも、今じゃ良かったと思ってます。実家は近いし

……(実家は木籠、川上秀雄さん方)」
「やりたいことがありますか。」
「車の免許をとりたいたいです。本当は、来たばかりの時にとろうかと思っただけですけど、子供ができちゃいましたので」

「これからの村への希望は、」
「私が働けるような工場などができるといいですね。小千谷や長岡へ通うのは大変ですから」
嫁さん仲間がいて楽しいし、もつと嫁さんが増えてほしいというせつ子さん。腕の中で和哉くんがおいしそうにミカンをしやぶっていました。



▲村史を読む会

11月7日、村史を読む会が開かれ、会場の役場と種芋原公民館に40名の村民が集まりました。

今年発刊された村史史料集に親しんでいたごとうと、村史編集委員を講師に開いたものです。実際の古文書を読んだり、その解説を行いました。

なお、今後も各地区で開催する予定となっています。



◀簡易バレーボール大会は種芋原チームが優勝

十一月六日から十三日まで、山古志中学校で簡易バレーボール大会が行われ、各公民館五チームで熱戦が繰り広げられました。

この簡易バレーボールは婦人用コートを使った九人制、ただし九人のうち女性が三人以上入らなければなりません。試合は、楽しくながらも白熱した展開となりました。

結果——一位種芋原、二位竹沢、三位池谷、四位東竹沢、五位虫屯。

長岡地方家畜共進会 村内入賞者

十月二十九日、長岡市の中央家畜市場で、第二十四回家畜共進会が開かれました。村内から十七頭が出品され、次の四頭が入賞しました。

▽和牛の部
優秀賞 上田鉄五郎(木籠)
優良賞 高野新之丞(間内平)
関 正史(梶金)
▽乳牛の部
優秀賞 畔上 勝(楢木)

歳末たすけあい運動



みんなそろって明るいお正月を、

「ひとの心の暖かさ」——今年も恒例の「歳末たすけあい運動」が十二月いっぱい行われます。

正月をひかえて、生活に困っている世帯、恵まれない子どもやお年寄り、体の不自由な人などのため、善意の募金をお願いします。

(目標額 一世帯三百円)

第5回産業まつりから



「村の産業を活気づけよう」と、十一月二日、池谷小学校で第五回産業まつりが行われました。

出品数は農産物二四二点、民芸品二八点、その他一八点の合計

五七八点。昨年よりチョッピリ増えています。天候不順と農作業の遅れがやはり災いしたようです。

この産業まつりも村民に親しまれ、たくさんの人でにぎわいました。レンコンやキノコなどの特売コーナーが設けられ、出品物の即売とともに、早い時間から売れ切れてしまっていました。

なお、入賞者は次のとおりです。

- 五十嵐ハツエ 影山 勝義
- 畔上 義一 星野 達雄
- 青木源太郎 齋藤 一
- 星野仲次郎 星野 行栄
- 星野 徳治 樺沢 重
- 星野 芳英 小川 ミチ
- 小川甚四郎 坂牧吉太郎
- 小川 竹治 小川 キイ
- 金内 徳松
- 農村工業奨励賞
 - (有)星野製作所
 - (有)山古志通信製作所
 - (有)長島製作所
- 小川製作所
- 最多出品賞
 - 畔上 進吉 小川 広太
 - 小川キヨシ 坂牧吉太郎
 - 小川竹治
- その外銀賞等六十六点

おどろきます (143)

八犬伝と その作者

修 野 筆 後

(143)

回外刺筆の一部紹介の前に、これだけ書いておこう。

八犬伝と云う膨大な小説が、大団円を結んだのは天保十二(1841)辛丑年の仲秋の名月の五日すぎた八月二十日であった。お路が最終の文字は和歌をもって筆をおいたという。その和歌は

哀れとは見る人も八重すだれ
かかる病み眼に編み果す書
だ。

馬琴の無量の想、こもごもの感情の明滅点消が思いやられる。筆をはじめてから、実に二十八年の歳月が消えていった筆業であった。

しかも、失明したあとの心労如何ばかりだったか。

○回外刺筆の一節

人の為に謀りて忠ならぬは吾もまた恥る所也。さればとて吾孫興邦(倅宗伯とお路の子)はなほ乳臭ある机心うせず。かつ武芸を好める本性なれば、かかる

悲助になるべくもあらず。かれが母は人並に、にじり書もすなれば、教えて代写させばやと、

ようやくに思いかへしつ。第百七十七回の中、音音が茂林浜にて、再生の段より代筆させて、

一字ごとに字を教へ、一句ごとに假名使を誨るに、婦人は普通の俗字だも知るは稀にて、漢字雅言を知らず、假名使ひでにをはだにも弁へず、偏旁すら心得ざるに、ただ言語のみもて教へ写する吾苦心は、云ふべうもあらず。況て教へ承けて写く者は、夢路を辿る心地して、困じて果は打ち泣くめり。然而、代写一枚に満つれば読反させて、また教へて傍訓を写するに、熟字を知らず句読を心得ねば読むとき或は字を脱し、或は無き字を添へて読むめり。読むすら輒からざるに、知らず心得ざる事を口授せられて写く者の艱難を思へば、いと痛ましさに幾度か己ばやと思ひしを、また思ひかへして、

筆捨の松のふる葉も
言の葉も
子等に教へてかするも

と打ち詠じて且慰めつつ、一卷二巻代写させぬ程に他(お路のこと)もやうやくに熟て、苦心初めの如くにはあらず。偏旁なども稍わかまへ知りて、言を費すも舌の疲るるまでに至らず。